

見えない脅威に備える特集号の発刊にあたって

代表取締役社長

最高執行責任者 井 手 博

自然災害の多発や新型コロナウイルス感染拡大、それらによって引き起こされた経済の停滞と社会の混乱など、2020年は不安に包まれた1年でした。ワクチンの開発が進んでいるとはいえ、本年も不安が払拭^{ふっしょく}されるまでには至らず、その間も自然災害は世界各地でさまざまな被害を及ぼし続けることでしょう。

冒頭から暗い話をいたしました。しばらく続くであろう不安とどう付き合っていくのが重要です。考えてみれば、人類は太古の昔から、感染症や天災などから群れを作って身を守ってきた訳であり、群れを作るために発達させてきたのがコミュニケーション能力でした。脅威は目に見えないものであり、漫然とした不安を取り除くには、個の不安をコミュニケーションによって客観化し、極小化することが効果的だと思います。一人ひとりが不安を口に出すだけでは不安が増幅され、恐怖に変わりますが、一人ひとりの不安に皆が耳を傾け、知り得る事実と照らし合わせながら、極端な想像を抑え、いざというときの対策を集団の英知として想像することも可能になると思います。



今回のIHI技報は、「見えない脅威に備える」というテーマですが、企業として現下のさまざまな脅威にどのように立ち向かうかという点では、先に述べました個の不安への対処と同様のことが言えるのではないかと思います。一企業としての懸念や問題意識をお客さまやパートナーの皆さまと共有することによって、課題解決の道筋を生み出し、相互の強みを活かした新たな技術やモデルを創造することも可能になるはずで、時間という非常時に最も大切なものを買う意味でも、自分たちだけでは気付くことのできない発想をもたらしてくれるという意味でも、多様な業種・業界の方々との連携を加速していきたいと思えます。

IHIグループは2020年11月に公表しました「プロジェクト Change」において、成長事業を再定義し、「航空輸送システム」、「カーボンソリューション」、「保全・防災・減災」の三つを掲げています。これらはいずれも気候変動などの見えない脅威による社会課題への挑戦です。IHIグループの有する技術や開発中の技術について、IHI技報では本号以降でも継続的にご紹介する予定です。技術開発にとどまらず、ビジネスモデルやサプライチェーン構築などさまざまな形で皆さまとの連携を進めていきたいと考えておりますので、ぜひともお声掛けいただければ幸いです。

IHIグループは、皆さまの声にタイムリーに反応する「打てば響く」企業グループとして皆さまと共に社会課題の解決に向かって参りたいと考えています。